

【2024年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフ3ぼいんと				
○保護者評価実施期間	2024年11月20日 ～2024年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	0	
○従業者評価実施期間	2025年1月15日 ～2025年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性や気持ちに配慮し、スケジュールや時間配分をわかりやすく伝え、活動を行っている。	平日は児童一人一人に合わせて活動の順番や内容を変え、活動に参加してもらいやすいように配慮している。土曜日、長期休暇は朝の会を行い、1日のスケジュールを視覚・聴覚情報を元に伝え、安心して活動に参加し、理解して自発的に動けるように工夫している。	児童に合わせ、より個別的なツールを作成し、効果を検討していく。予定が変更になった際、上手く伝える事ができておらず、気持ちの切り替えがスムーズにできない場合があるため、理由等も含めてわかりやすく伝える事と事前の声かけを意識していく。
2	幅広い年齢層の児童同士の交流	異年代児童の関わりやコミュニケーションを増やすために、混合のグループ分けや移動時に手つなぎをしてもらう等の機会を作っている。	法人内事業所同士の交流や地域の児童との交流の機会を増やす事で、より多くの年齢層の児童や職員と関わってコミュニケーションを取り、対人スキルや社会性(ルール・マナー)を学べるように促していく。
3	豊富なイベントの企画・実施を心掛けている。	児童の活動への参加意欲や様子を観察し、楽しめている内容については恒例行事として、頻度や方法を工夫している。児童の年齢や成長に合わせて、特にクッキング等ではできる限り自分たちで取り組んでもらえるように人員を配置、手順書の作成、グルーピングするなど意識している。	現在も児童から何がしたいか意見を聞き取り、活動内容に反映しているが、今後は児童同士で遊びを考えたり、ルールを決めたり、話し合うための時間を意図的に作り、イメージする力の向上や自己決定の経験を増やすこと、協調性を養うことに繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流などの機会が少なく、開けた事業所になっていない。	地域の事業所や地域の人たちとの連携が不十分である。	自立支援協議会を通じて連携を強化し、地域の事業所との合同イベントなどの実施を検討していく。
2	保護者会や研修会、情報提供の機会の拡充	保護者が事業所に来る機会が少なく、児童の様子を伝えるのが口頭だけの情報になってしまっている。	法人内他事業所が行っている保護者カフェや保護者参加型のイベントを企画・実施できるように検討していく。
3	個別空間での発達支援	集団活動を主な活動としており、個別活動を行うための仕切られた空間がないことと、人員の配置が困難なこと。	児童の特性や成長過程を考慮して課題や作業工程を差別化し、集団活動に参加しながら個別活動が行えるように工夫する。物の配置などで活動や児童の動きを分けられるように構造化する。